

多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材」

がんプロフェッショナル

養成プラン

— 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン —

第3期(2017～2021年度) 活動報告書

慶應義塾大学大学院
薬学研究科

文部科学省 研究拠点形成費補助金
(先進的医療イノベーション人材養成事業)

第3期(2017～2021年度) 活動報告書

多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材」

がんプロフェSSIONAL

養成プラン

—未来がん医療プロフェSSIONAL養成プラン—

目次

ご挨拶	2
薬学研究科がんプロ実施体制	4
本プロジェクトにおける実績・成果	7
薬学がん研究者養成コース(博士課程) 大学院生コメント	8
ポスター・受講者の声	10
新型コロナウイルス感染症拡大にともなう対応 (2020・2021年度研修会)	36
薬剤師部会との連携	39

慶應義塾大学大学院 薬学研究科
研究科委員長
教授 三澤 日出巳



がんプロフェッショナル養成プラン第3期は、「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材養成プラン」を全国的テーマとし、我々の拠点でも「未来がん医療プロフェッショナル（未来がんプロフェッショナル）養成プラン」をグループのテーマに掲げて取り組んでまいりました。途中、想定外の新型コロナ禍に見舞われましたが、大学院コース、インテンシブコースのいずれも閉講することなくそのスケジュールを完遂し、2021年度をもって無事終了することができました。第3期は、がんゲノム医療（プレシジョン・メディシン）などにおける専門性の高い医療人育成が求められており、慶應義塾からは薬学研究科、医学研究科、健康マネジメント研究科の3研究科が、連携を取りながら5年間の活動を推し進めて参りました。その記録を後の頁に掲載いたしますが、新型コロナ禍の中にありながら、万全の感染防止対策を取りながら、着実に成果を上げられたと思います。

我々のグループの特徴は、人口が集中する都心の大学と過疎化が進む東北地区の大学がそれぞれの特徴を生かしながら活動を行った点にあります。「全国どこにいても最新のがん診療を受けられる」ことが、わが国のがん医療の理想ですが、その実現は容易ではありません。地理的に離れた医療機関同士が、どうやって漏れなく情報を伝達するのか、場合によっては患者の診断や治療についてディスカッションしなければならないことも発生します。本がんプロ事業を通じ

て、各施設の長所と短所をお互いが理解し補い合うことが第一歩であり、実際に全体運営会議で東北地区の先生より「がんプロにより県内各施設さらには都心部の施設とも情報交換の体制ができ、がん医療の均てん化が一気に進んだ」とのご発言があり、当拠点におけるもっとも重要なことが達成できたのではないかと考えております。薬学研究科においても義塾内外の施設と連携をとりながら、ゲノム医療をはじめとしたバイオインフォマティクスの整備が進行しつつあること、その中で患者の社会的背景を重視した薬剤師の介入について認識を深められたことは大きな成果だと思います。特に、AYA世代と言われる若年患者への対応については深い議論が行われました。また、奇しくも新型コロナ蔓延により、全国的にネット通信が広まったことが、逆にweb会議などによる外部施設との情報伝達方法の進歩につながったように思います。

文部科学省からの連絡によると、2022年度は国のがんプロへの支援は一旦打ち切りとなり、2023年度からは新しい形での活動が開始されるであろうということです。薬学研究科では、大学院、公開講座をプラットフォームとして、2022年度もこれまでと変わらない活動を継続していく所存です。学内外の関係諸氏にはこれまでのご尽力に御礼を申し上げるとともに、引き続きご指導、ご支援を頂きたいと思っております。

應義塾大学大学院 薬学研究科
がんプロコーディネーター
教授 服部 豊



2017年度にスタートした第3期がんプロフェッショナルは、2021年度をもって終了致しました。

大学院コースにおいては、3年目に4名の博士課程大学院生が参加し目標者数には達しましたが、新型コロナ肺炎蔓延による影響は大きく、その後の参加者がなかったのは残念に思います。ただし、大学院科目における教育内容が充実し、がん研究や診療について高度な講義が行われる「がん専修特論I」、SGD形式により自らががん薬物療法を立案する「がん専修特論II」には、がんプロ参加者でない学生も含め5年間にそれぞれ10名、36名が参加いたしました。

一方、インテンシブコースでは、6月の講演会、10月の参加型の症例検討、1月の市民公開講座を期間中欠かさず開講することができました。その結果、5年間の参加予定人数は170名のところ、それをはるかに超える418名の参加がありました。これは、優れた内容であったことに加えて、慶應薬学研究科には、以前より薬剤師の卒後教育のための公開講座の体制が整っていたことによると思われまます。さらに1月の講座では、がん患者やその家族、一般市民の方々の参加を念頭に置いて、必要かつタイムリーなテーマを選んで、講師にわかりやすく解説して頂きました。

また、がんプロでは横のつながり、すなわち複数の大学間での活動が重視され、薬学研究科も薬剤師部会に所属して年4回のweb運営会議を開催しました。その結果、聴講者としてのみならず講師陣としてお互いに他校のイベントに参加す

る人的交流の仕組みが出来上がったことも第3期の成果と思います。

最後に、とりわけ第3期がんプロ10月開催の研修会の準備遂行にファシリテーターとして5年間情熱をもって取り組んでくださいました、がん研究会有明病院の川上 和宜先生、小林 一男先生、国立がん研究センター中央病院の宇田川 涼子先生、中島 寿久先生、日本大学医学部附属板橋病院の葉山 達也先生、虎の門病院の小田 泰弘先生、国立病院機構東京医療センターの大橋 養賢先生、東海大学医学部附属病院の谷川 大夢先生、帝京大学医学部附属病院の徳留 雄太先生、埼玉医科大学国際医療センターの藤堂 真紀先生、上尾中央病院の国吉 央城先生をはじめ、多くのがん指導薬剤師・専門薬剤師の方々に厚く御礼申し上げます。また、縁の下の力持ちとして尽力いただいた、薬学研究科学生課の島根さん、芦刈さん、河野さん、内田さんにも心より感謝を申し上げます。

薬学研究科がんプロ実施体制

2017年度

事業総括

学部長 / 研究科委員長

教授 金澤 秀子

薬学部がんプロ運営委員会委員
コーディネーター

病態生理学講座

教授 服部 豊

薬学部がんプロ運営委員会委員

化学療法学講座

教授 杉本 芳一

薬学部がんプロ運営委員会委員

医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門

教授 中村 智徳

薬学部がんプロ運営委員会委員

医療薬学・社会連携センター
社会薬学部門

教授 山浦 克典

薬学部がんプロ運営委員会委員

薬剤学講座

教授 登美 斉俊

薬学部がんプロ運営委員会委員

薬効解析学講座

教授 松元 一明

薬学部がんプロ運営委員会委員

薬物治療学講座

准教授 齋藤 義正

薬学部がんプロ運営委員会委員

病院薬学講座

准教授 青森 達

未来がん医療プロフェッショナル養成
プラン専門部会 薬剤師部会担当

医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門

助教 横山 雄太

事業総括

学部長 / 研究科委員長

教授 金澤 秀子

薬学部がんプロ運営委員会委員
コーディネーター

病態生理学講座

教授 服部 豊

薬学部がんプロ運営委員会委員

化学療法学講座

教授 杉本 芳一

薬学部がんプロ運営委員会委員

医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門

教授 中村 智徳

薬学部がんプロ運営委員会委員

医療薬学・社会連携センター
社会薬学部門

教授 山浦 克典

薬学部がんプロ運営委員会委員

薬剤学講座

教授 登美 斉俊

薬学部がんプロ運営委員会委員

薬効解析学講座

教授 松元 一明

薬学部がんプロ運営委員会委員

薬物治療学講座

准教授 齋藤 義正

薬学部がんプロ運営委員会委員

病院薬学講座

准教授 青森 達

未来がん医療プロフェッショナル養成
プラン専門部会 薬剤師部会担当

薬学部がんプロ運営委員会委員

医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門

専任講師 河添 仁

医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門

助教 横山 雄太

2019～2021 年度

事業総括

学部長 / 研究科委員長

教授 三澤 日出巳

薬学部がんプロ運営委員会委員
コーディネーター

病態生理学講座

教授 服部 豊

薬学部がんプロ運営委員会委員

化学療法学講座

教授 杉本 芳一

薬学部がんプロ運営委員会委員

医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門

教授 中村 智徳

薬学部がんプロ運営委員会委員

医療薬学・社会連携センター
社会薬学部門

教授 山浦 克典

薬学部がんプロ運営委員会委員

医薬品開発規制科学講座

教授 漆原 尚巳

薬学部がんプロ運営委員会委員

薬効解析学講座

教授 松元 一明

薬学部がんプロ運営委員会委員

薬物治療学講座

准教授 齋藤 義正

薬学部がんプロ運営委員会委員

病院薬学講座

准教授 青森 達

未来がん医療プロフェッショナル養成
プラン専門部会 薬剤師部会担当

薬学部がんプロ運営委員会委員

医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門

専任講師 河添 仁

医療薬学・社会連携センター
医療薬学部門

助教 横山 雄太

本プロジェクトにおける実績・成果

コース別受入人数

コース名	受入人数／受入目標（単位：名）				
	2017年度 (H29年度)	2018年度 (H30年度)	2019年度 (R1年度)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)
薬学がん研究者養成コース（博士課程）	—	0/1	4/1	0/1	0/1
薬学がん研究者養成コース（インテンシブ）	23/34	146/34	131/34	33/34	85/34

※薬学がん研究者養成コース（博士課程）は、2018（H30）年度より設置。

がんプロフェッショナル研修会・イベント受講者数

がんプロフェッショナル研修会	受講者数（単位：名）				
	2017年度 (H29年度)	2018年度 (H30年度)	2019年度 (R1年度)	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)
6月研修会	(87)	112	95	—	56
10月研修会	23	34	35	33	30
1月研修会（市民公開講座）	210	107	84	228	236

※ 2017（H29）年度6月研修会は文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン採択前に開催された講座のため、コース別受け入れ人数には算入しない。

※ 2020（R2）年度6月研修会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止となった。

薬学研究科 博士課程 3年 青木 秀憲

研究テーマ

肝がん移行率の高い NASH に対する ω 3 PUFA による制御の分子機構解析

本コースでは、博士課題研究として「肝がん移行率の高い NASH に対する ω 3 PUFA による制御の分子機構解析」そして講義・演習として「がん・プロフェッショナル研修会や先端ゲノム医学」に取り組んだ。中でも先端ゲノム医学ではがんに対してゲノムの観点から治療方針を作成する最先端の医療の内容を知れたことはもちろん良いことだったが、倫理的な観点からの医療従事者としてのゲノム医療への関わり方を学べたことが大きかった。例えば、PARP 阻害剤であるオラパリブは BRCA 遺伝子の変異がある患者に使う。つまり、その患者の遺伝子情報がその薬を飲んでいただけでわかってしまうという個人情報性を含んだ薬剤であることから単純な薬剤の知識だけでなく、患者の個人情報に配慮した薬学的介入が必須となる。現在様々な製薬企業で個別化医療に向けて、そのような分子標的薬が生み出されている中、医療従事者は単純な科学的介入以外にも倫理性を重視した介入が重要視される。本コースでは倫理的アプローチについても学ぶ場となっており、これからの医療を様々な立場で支えていく事になる博士課程の学生に多様な視点を持たせる良い場である。

薬学研究科 博士課程 3年 石川 恵海

研究テーマ

非小細胞肺がん患者における EGFR-TKI 及び ALK-TKI の治療最適化の検討

私は、非小細胞肺がん患者に用いられるチロシンキナーゼ阻害薬の薬物動態学 / 薬力学 / 薬理遺伝学 (PK/PD/PGx) について研究しており、非小細胞肺がんの患者を対象とした臨床研究を実施し、チロシンキナーゼ阻害薬の安全性を担保しながら、効果を最大限に引き出す最適投与方法の検討に取り組んでおります。また、チロシンキナーゼ阻害薬の治療薬物モニタリング (TDM) の推進を目的とし、様々なチロシンキナーゼ阻害薬治療を受けている複数患者の検体を効率的に分析できる血中濃度同時測定法の確立に成功しました。

本コースでは「がん専修特論」や「がんプロフェッショナル研修会」を受講し、さらに研究課題を進めることで、がん個別化医療をはじめ、がん治療に関連する知識の向上ができていますと実感しております。特に「がん専修特論」で見学させていただいたエキスパートパネルや、「がんプロフェッショナル研修会」における症例検討、および臨床研究で実施しているがん患者モニタリングでは、臨床現場に近い環境で最先端のがん治療に触れることができました。本コースで得られる知識や経験を活かし、さらに研究を進め、がん患者の薬物治療に役立つエビデンス構築に努めたいと考えております。

研究テーマ

質量分析インフォマティクスを用いた 新規ノンターゲットリポドミクス解析システムの開発と応用

私は、基礎研究から臨床検査まで幅広く使用される「質量分析計」のデータを扱う情報科学（質量分析インフォマティクス）の分野で、炭素間二重結合位置などの同定によって従来よりも詳細な構造解析を実現するリポドミクス技術の研究・開発をしています。本コースのがん専修特論Ⅰ/Ⅱでは、臨床現場で実施されているがんプレジジョンメディシンについて学びました。特に、慶應義塾大学病院内で実施されているがん遺伝子検査とそのカンファレンスでは、がん専門医などの医療従事者たちとデータ解析を担当しているインフォマティシャンとが解析結果について議論し、患者の今後の治療戦略を連携して決めていくプロセスに立ち会わせて頂きました。本コースで学んだことを糧に、私の研究・開発している解析技術が、診断に資するバイオマーカーの探索やがん病態機構の解明へ役立つことを目指して今後も研究を進めていきたいです。

研究テーマ

予後不良がん克服を目指した Ingenol 骨格関連化合物の 新たな治療薬創出に向けた基盤研究

Ingenol 骨格を有する化合物（インゲノール化合物）は抗腫瘍効果を有する可能性が報告されており、有望な抗がん剤シーズの一つです。しかし、その作用機序や標的分子についてはほとんど解明されておらず、がん治療薬としては臨床応用に至っていません。私は、予後不良かつ有効な治療法開発が危急的課題である膵がんに対して、インゲノール化合物が治療薬となる可能性について研究しており、既に *in vitro* 実験により複数の薬剤低感受性ヒト膵腺がん細胞株に対して、インゲノール化合物が既存の膵がん治療薬より低濃度で細胞増殖抑制効果を示すことを見出しています。現在、次世代シーケンサーなど最新の研究手法も取り入れ作用機序の解明に取り組んでおり、日々研究者としての研鑽を積んでおります。薬学研究者養成コースでは基礎実験だけでなく、がんに関連する実臨床における最新研究を学内外の学会・研究会・セミナー等にて聴講、討論、見学する機会や、専門領域の先生方から自身の研究に対するフィードバックを頂く機会もあります。今後は本研究成果を、ぜひ臨床に還元できるよう発展させていきたいと考えております。



2017年度

慶應義塾大学薬学部公開講座

「がんプロフェッショナル研修会」

2017年 10月1日(日)

9:30-16:30 (受付9:00~)

・定員:30名/受講料:3,000円

・申込締切:9月15日(金)

・会場:慶應義塾大学 芝共立キャンパス3号館11階 1101会議室



プログラム/午前

9:35~9:50 Opening Remarks

講師:川上 和宜(公益財団法人がん研究会有明病院医療安全管理部/薬剤部 主任)

9:50~10:35 [講演]「薬剤師目線からの乳がん薬物療法」

小倉 敬史(公益財団法人日産厚生会玉川病院薬剤科 主任)

10:35~11:05 [講演]「地域中核病院における薬業連携の実際」

国吉 央城(医療法人社団愛友会上尾中央総合病院薬剤部 主任)

11:15~11:45 [症例検討]「乳がん患者に対する薬学的ケアの実践~経口抗がん薬への取り組みと副作用マネージメント~」

葉山 達也(日本大学医学部附属板橋病院薬剤部 主任)

プログラム/午後

12:40~14:45 スモールグループディスカッション

14:55~15:40 発表

15:40~16:30 解説・ロールプレイ

<ファシリテーター>

大橋 義賢(東京医療センター 薬剤部)

川上 和宜(がん研究会有明病院医療安全管理部/薬剤部 主任)

中野 泰寛(がん研究会有明病院薬剤部 主任)

葉山 達也(日本大学医学部附属板橋病院薬剤部 主任)

原田 知彦(神奈川県立がんセンター 薬剤部)

深谷 寛(東京女子医科大学病院薬剤部 薬剤副部長)

<取得可能単位>

・慶應義塾大学薬学部生涯研修認定単位 3単位

・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定単位 3単位

・日本医療薬学会認定 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定単位 2単位

*終了後、症例サマリーを作成、期日までに提出して頂きます。プログラム全てを受講し、課題を提出した受講者のみ単位認定いたします。

<申込方法>

*下記生涯学習Webサイトからお申込下さい。受講料の振込みをもって受講申込となります。

*HP: https://cpec.pha.keio.ac.jp/o_class/list.html

*個人情報取扱:申込時に提供された個人情報は受講者管理及び御案内の発送以外の目的には使用いたしません。

■主催:慶應義塾大学薬学部

■共催:文部科学省 多様な新ニーズに対応する

「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン

■問い合わせ先:慶應義塾大学大学院薬学研究科
がんプロフェッショナル事務局

〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30

E-mail: kyg-sympo@adst.keio.ac.jp

受講者の声

- 明日から、何かひとつでも実践できるように頑張りたいと思います。
- 症例についてのディスカッション（薬局の先生との）は初めてで、普段の業務では経験出来ないことができてよかった。
- 自分ひとりでの学習では気づかない事に、多々気づくことができました。ありがとうございました。
- 現場の薬剤師さんとのディスカッションは有意義であった。学ぶことが本当に多かった。
- いろいろ細かくおしえていただいて、勉強になりました。
- 大変活発に討論できました。ファシリテーターの先生方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。
- また参加したいと思います。職場のスタッフにも今日学んだ事を伝えていきたいです。自分自身で考え、判断できるようにもなりたいと思います。
- “行動にうつす”を、やらねばと思います。
- SGD は良いカリキュラムだと感じました。
- 初めて参加しました。良い機会をいただきました。
- 討論は知識の共有が出来てよかった。他の疾患でもやりたい。
- 貴重な経験になりました。
- たいへん勉強になりました。
- グループワークは、大変だけどより深く学べました。ファシリテーターの先生の助けがあったおかげで、スムーズに進めました。ありがとうございました。
- 院外処方箋から推察し得る情報の読み取り方、病院での治療の実際を知りたいと思う。
- ディスカッションすることで、様々な意見が聞けてとても参考になりました。
- なかなかプロになるのは大変ですが、なれるように導いてくださる研修はありがたいです。

コーヒーを飲んで延ばす健康寿命

2018年 1月13日(土)

13:30-15:00 (受付13:00~)

無料

最近

「コーヒーが生活習慣病の予防に効く」という話題をよく耳にしますが、どのようになぜ効くのかについて最新の研究成果を混じえてお話します

- ・定員:200名(先着順)／受講料:無料
- ・対象:どなたでも
- ・申込締切:2018年1月8日(月)
- ・会場:慶應義塾大学 芝共立キャンパス



【講師】

慶應義塾大学薬学部衛生化学講座
田村悦臣 教授

受講者の声

- とても興味をもって最後までしっかり聞きました。白内障（現在眼科にかかっています）が少々あるので Coffee を取り入れたいと思い、これから先、健康に注意して長生きしたいです。
- 少し難しいお話もありましたが、コーヒーが様々な病気に対して良い効果があることがわかって勉強になりました。砂糖、ミルクをいつも入れないと飲めないのを少し考えてみようと思いません。ありがとうございました。
- 主人がB型肝炎で、肝臓病教室に何回か出席していて、いつもコーヒーの話が出ていて興味がありました。大変参考になりました。ありがとうございました。（慶應病院の先生に大変お世話になり感謝しております）
- 身近な飲料コーヒー（焙煎）での病気予防効果が大である事を知る事ができ、今まであまり飲んでいなかったのを、今後は病気予防のため飲むようにしようと思いました。興味を持って講座を受ける事が出来ました。
- 知らないこと、伝説的に聞いていたことが科学的にも実証されてきていることに驚いた。非常に参考になった。
- コーヒーと健康について詳しく学べてとても有意義でした。栄養指導にも役立てたいと思いません。
- 専門用語もあり、難しい内容でもありました。しかし、身近なことから生活習慣をつけることで健康寿命がのびることを理解しました。本日は、大変貴重な講座をありがとうございました。
- コーヒーの疫学研究が、細胞レベルの影響について行われていることに驚きました。コーヒー豆の成分と焙煎の影響について研究されていますが、漢方薬で薬草を煎じる効果を思い起こされました。コーヒーについて高度な研究がなされていることを知らされて（素晴らしい）、コーヒーをよく飲むので身近な飲み物についての研究なので、素晴らしいと思いました。生活習慣病が、運動や飲食物などで改善、予防されることは理想的なことと思います。
- 肥満やがんがコーヒーがある程度の効果がある事は多少知っていたが、認知症や白内障にも効果が有るとは知りませんでした。
- コーヒーが好きな私としては、とても身近な内容でとても参考になりました。ありがとうございました。

第1回がんプロフェッショナル研修会

2018年 6月10日(日)

9:50 - 13:00 (受付 9:00~)

・定員：50名 / 受講料：2,500円

・申込締切：6月3日(日)

・会場：慶應義塾大学 芝共立キャンパス 1号館B1階 マルチメディア講堂



みんなで学ぼう安全ながん治療への薬学的介入 ~医療連携、副作用マネジメントを中心に~

■講師のプロフィール

河添 仁

慶應義塾大学薬学部医療薬学・社会連携センター
 医療薬学部門 専任講師
 日本医療薬学会認定がん専門薬剤師

2001年 徳島大学薬学部 卒業
 2008年 徳島大学大学院博士後期課程 修了
 2013年 愛媛大学医学部附属病院薬剤部 主任
 2016年 松山大学薬学部 非常勤講師兼任
 2018年 慶應義塾大学薬学部医療薬学・社会連携センター
 医療薬学部門 専任講師
 現在に至る

【講座情報】

第一部として、経口抗がん剤治療における医療連携を紹介する。医薬分業では全国の院外処方率が75%を超え、地域包括ケアシステムに向けて保険薬局の果たす役割は大きい。そこで、愛媛大学医学部附属病院と保険薬局における双方向性の情報共有の取り組みとアウトカム、現状の課題、その克服に向けた将来展望を概説する。

第二部として、がん化学療法誘発悪心・嘔吐の副作用マネジメントを紹介する。薬剤師は科学的根拠に基づく介入や臨床研究を通して、安全ながん治療へ貢献する必要がある。そこで、国内外制吐療法ガイドライン、最新のエビデンス、薬学的介入とアウトカム、SNPsに基づく個別化の展望を概説する。

<取得可能単位>

- ・慶應義塾大学薬学部 生涯研修認定単位 2単位
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定単位 2単位
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定単位 1単位

<申込方法>

- ・下記生涯学習Webサイトからお申込下さい。
- ・受講料の振込みをもって受講申込となります。
- ・HP https://cpec.pha.keio.ac.jp/o_class/list.html
- ・個人情報の取扱: 申込時に提供された個人情報は受講者管理及び御案内の発送以外の目的には使用いたしません。

■主催：慶應義塾大学薬学部
 ■共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する
 「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン
 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

■問い合わせ先：慶應義塾大学大学院薬学研究科
 がんプロフェッショナル事務局
 〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30
 E-mail : kyg-sympo2@adst.keio.ac.jp

受講者の声

- 在宅医療が推進される中で、患者さんに何を伝え、何を考えて対応すればいいのかが感じることができました。
- 大変分かりやすい説明で論文の内容も理解することができました。日本と海外の現状、制吐剤の使用について勉強させていただきました。今後の業務に生かしていきたいと思います。
- とても理解しやすく、先生の実際に行われた指導などが心にひびきました。前に愛媛大学のTS1の流涙の講演会をきいて実際にヒアラインから点眼液をかえた事があります。明日からはき気等で苦しんでいる患者さんになにかよいアドバイスができればいいなあと思っています。調剤薬局にすすめられる食事なども教えていただけるとありがたいです。はずかしいですがオランザピンが処方されている患者さんにガンになり精神的に安定するのかと思っていた事がありました。本当に勉強になります。
- 講義時間、題目数が良い配分だった。
- 制吐の手法がよくわかりました。
- 薬々連携をする事が目的ではなく、それによって如何にアウトカムを良くし、患者さんをハッピーにするかが重要なのだと改めて認識しました。
- がん治療の第一線で活躍されている河添先生のデータも用いたお話がとてもわかりやすく、自分の中で頭の整理が出来ました。
- 制吐剤の使用法、ガイドラインなど具体的で分かりやすかった。実際の患者さんでのデータから解析されている点も納得できる。院内での支持療法の取りくみも知ることができた。
- 今のがん治療の進歩する様子がわかりました。これからがん治療に対する知識を深めたいと思いました。
- 普段の業務で行っていることでも論文の結果を絡めて説明していただき、深く理解できたと思います。
- 抗がん剤処方箋を受けることは、現在の薬局ではほとんどありませんが、精神科クリニック門前であるため、現在ガン治療中でうつ症状、又は自分が手術を受けた後、又は家族で大変な不安を抱えている方に接することが多いので参考になります。
- 抗がん剤治療中の患者さんは来局していないのですが、来局した際ていねいな説明対応ができるよう本日勉強したことを生かしていきたいと思います。
- 薬々連携の具体例を提示していただいて大変参考になった。とてもわかり易く説明していただいた。
- 日々触れている制吐剤についてわかりやすい講演を聞くことができ、明日からの臨床に役立たいと思います。
- 薬剤師はドクターと同じに臨床試験ができるのだと知りました。
- 抗がん剤の制吐剤について理解が深まった。
- 未来につながる治療の有用性を実感した。



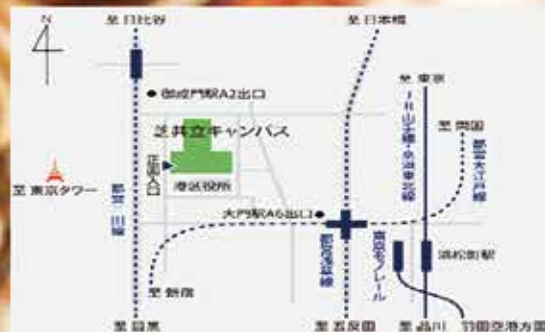
2018年度

慶應義塾大学薬学部公開講座

第2回がんプロフェッショナル研修会

2018年 10月14日(日)

9:30 - 16:50 (受付9:00~)



- ・定員：30名 / 受講料：3,000円
- ・申込締切：9月14日(金)
- ・会場：慶應義塾大学 芝共立キャンパス 3号館11階 1101会議室

～胃がん化学療法患者に対するファーマシューティカルケア～

プログラム／午前

9:35～ 9:50 Opening Remarks

講師：川上 和宜(公益財団法人がん研究会有明病院医療安全管理部/薬剤部 主任)

9:50～10:30 【講演】「胃がん治療において薬剤師が知っておくべき知識(術式から抗がん薬治療まで)」

大里 洋一(独立行政法人国立病院機構東京医療センター薬剤部)

10:30～10:50 【講演】「地域中核病院側から地域連携における取り組み」

国古 央城(医療法人社団愛友会上尾中央総合病院薬剤部 主任)

10:50～11:30 【講演】「保険調剤薬局で外来がん治療認定薬剤師を取得した後の取り組み」

水井 亮(あおば薬局)

11:40～12:10 【症例検討】「胃がん患者に対する副作用評価と治療マネージメント

～副作用評価と治療マネージメントを学ぶ～」

大橋 養賢(独立行政法人国立病院機構東京医療センター 薬剤部)

プログラム／午後

13:00～15:05 スモールグループディスカッション

15:15～16:00 発表・ロールプレイ

16:00～16:50 解説・質疑応答

<ファシリテーター>

川上 和宜(がん研究会有明病院医療安全管理部/薬剤部 主任)

葉山 達也(日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部)

中島 寿久(国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 薬剤部)

谷川 大夢(東海大学医学部付属病院 薬剤部)

緑川 武志(みどりの薬局)

中田 英夫(慶應義塾大学病院 薬剤部)

<取得可能単位>

- ・慶應義塾大学薬学部 生涯研修認定単位 4単位
 - ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定単位 3単位
 - ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定単位 2単位
- *終了後、症例サマリーを作成、期日までに提出して頂きます。プログラム全てを受講し、課題を提出した受講者にのみ単位認定いたします。

<申込方法>

- ・下記生涯学習Webサイトからお申込下さい。受講料の振込みをもって受講申込となります。
- ・HP https://cpec.pha.keio.ac.jp/o_class/list.html
- *個人情報の取扱:申込時に提供された個人情報は受講者管理及び御案内の発送以外の目的には使用いたしません。

■主催：慶應義塾大学薬学部
 ■共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する
 「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン
 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

■問い合わせ先：慶應義塾大学大学院薬学研究科
 がんプロフェッショナル事務局
 〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30
 E-mail : kyg-sympo2(a)adst.keio.ac.jp

受講者の声

- とても勉強になりました。明日からの投薬にいかしていきたいと思います。
- 病院、薬局、様々な仕事環境の人が集まって討論することで、いろいろな観点で意見が出て自分だけでは考えられなかったことも知識として入手できてよかった。ペーパーでは得られない良い体験でした。
- まさに明日の投薬に役立つ討論、講演でした。病院薬剤師さんたちのレベルの高さに感心しました。次回もぜひ参加したい研修会です。
- 薬薬連携をしっかりと取れることができ、今後に活かしたいと思った。
- 非常に分かりやすく、大変勉強になりました。今後の業務に活かしていきたいと思います。
- 実践に即した具体的な事例検討、ディスカッションができとても有意義でした。
- グループワークをすることで、気付かなかった視点をたくさん提示していただけて大変勉強になりました。予習は必要でしたが、わからなかったところを講義で教えていただけて助かりました。
- 大変学ぶところが多く勉強になりました。
- とても勉強になりました。
- これからますますガンの患者さんが外来でできます。このような会に参加し勉強していきたいと思います。
- 業務上あまり体験がなく参加が不安でしたが、参加することで新たな視点に気づき、また、互いに刺激できたのでよい機会と思いました。また参加したい。
- 保険薬局で活躍する外来がん治療認定薬剤師の取り組みの様な薬局と病院を相互行ききする様な取り組みをもっと知りたいと思いました。
- 他の人の意見を聞くことで自分にはなかった視点に気付くことができました。わからなかった事も、チューターの先生にサポートしていただき、解決することができました。
- 熱心な講師陣、積極的な薬剤師の皆さんと、活発にディスカッションでき、有意義な一日でした。
- 各講義も順序だてて説明され、理解しやすく大変勉強になりました。スモールグループディスカッションは、病院薬剤師さんと一緒に検討し、処方の方のの違いを感じました。薬薬連携の大切さ重要さを改めて感じました。
- 内容の濃い研修会で、とても良かった。明日からの業務に生かせます。
- とても勉強になりました。しっかり復習して自分の知識として定着させたいと思います。
- 講義を聴いてからのスモールグループディスカッションという形だったので、とても勉強になりました。
- ガン副作用のステージより薬の減量など多くの知識が得られ大変勉強になりました。
- SGD、事前学習があるととても勉強になった。
- かなり緊張してのぞみましたが、楽しかったです。
- 今後も各種がんに対応して研修会を開いて頂ければと思います。
- 参加型は大変勉強になった。
- 色々な職場の人とディスカッション出来て大変勉強になりました。

薬学で学ぶ：
がんゲノム医療と分子標的治療薬

2019年 1月20日(日)

13:30-15:00 (受付13:00~)

無料

「がん」という病気は、遺伝子の異常で起きることが分かってきました。がん治療における最近の話題、がんゲノム医療と新しい治療薬についてご紹介いたします。



- ・定員：200名(先着順)／受講料：無料
- ・対象：どなたでも
- ・申込締切：2019年1月6日(日)
- ・会場：慶應義塾大学 芝共立キャンパス

■主催：慶應義塾大学薬学部
■共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン
ー未来がん医療プロフェッショナル養成プランー



【講師】
慶應義塾大学薬学部化学療法学講座
野口 耕司 准教授

受講者の声

- 限られた時間内でわかりやすく説明され、終始関心を途絶えることなく拝聴できました。資料も見やすく有難かったです。市民公開講座の名でありながら、濃い内容だったと思います。現状と問題点、問題点の存在、いくらかでも理解できてうれしいです。現在の職場で直接関連がある位置にはないのですが、仕事継続の上でよい刺激になりました。
- ゲノム、遺伝情報の基本からがんゲノム医療まで全体像を把握することができた。
- 一般の人にわかりやすく説明していたと思う。最後の「ゲノム情報は究極の個人情報」は印象的。
- Interesting topic to catch up on latest information.
- 大変面白くて分かりやすかったです。新しい内容をかみくだいて誰でも分かる様に話して下さい、ガン分子治療について理解を深められました。
- 普段がん患者さんと接する機会が多くないため勉強させていただきました。大変有意義なお話をありがとうございました。患者さんに対して、家族や自分がいざ当事者となったときにも大変参考になります。
- ゲノムとは?? 難しそうだな・・・とっておりました。昨年の本庶先生の具体的な研究内容が今日思いがけず理解することができました。
- 非常に分かりやすい講義をありがとうございました。がんについて研究したいと考えているため、参考になりました。
- 大変貴重な講義をありがとうございました。現在、老人ホームにて看護の仕事をしていますが、イレッサ他、抗癌剤薬について、詳しく説明を受けることができたので良かったと思いました。今後も遺伝子ゲノム治療について、ネットや新聞、講座等を通して学んでいきたいと思います。
- 薬学・がんに興味を持っていたので、今回受講しました。がんは手術をしなければ治らないという印象が強かったが、分子標的治療薬によって治った例を知り、さらに興味を持ちました。とても分かりやすく、説明して下さり、理解が深まりました。ありがとうございました。
- 本学卒業のメーカー勤務の者です。基本的なところから最新のお話まで詳しく説明していただきとても勉強になりました。
- 詳しくわかりやすくお話いただき、大変参考になりました。化学的な進歩を背景に医療の変化を実感する一方で、メリットやデメリットをきちんと理解することや、患者さん自身の問題がおきざりにされないよう現場の配慮が必要かと思いました。本日学んだことを現場で活かせるようやっていきたいと思います。
- 変化の激しい状況が良く分かりました。使用されていた資料が非常にていねいに分かりやすく準備されていたので、助かりました。
- ガン治療、治療薬については開発が早く、情報についていくのがとても大変です。薬局に勤めておりますので、臨床現場の感覚がわかりづらいので今回のような講座はありがたく思います。2025、2035年問題をかかえる中、在宅で本講座の内容の薬が使われる可能性もあるかと思えます。医療関係者だけでなく市民レベルでの知識向上は必要であると感じました。
- 自分はがん患者としてたくさん知識を得られました。治療の方法にもビジョンができました。

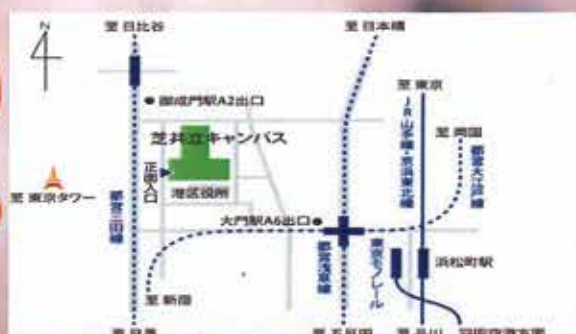


第1回がんプロフェッショナル研修会

2019年6月15日(土)

13:50 - 16:50 (受付 13:00~)

- ・定員：50名 / 受講料：2,500円
- ・申込締切：6月10日(月)
- ・会場：慶應義塾大学 芝共立キャンパス
1号館B1階 マルチメディア講堂



第一部： 医療品添付文書とPGx情報：

13:50~15:20 **がん薬物療法における個別化医療の実際**

辻 大樹 静岡県立大学 薬学部薬学科・薬学研究院 講師

第二部： がんゲノム医療における薬剤師の役割

15:20~16:50

寺田 智祐 滋賀医科大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

<取得可能単位>

- ・慶應義塾大学薬学部 生涯研修認定単位 2単位
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定単位 2単位
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定単位 1単位(申請中)

<申込方法>

- ・下記生涯学習Webサイトからお申込下さい。
受講料の振込みをもって受講申込となります。
- ・HP https://cpec.pha.keio.ac.jp/o_class/list.html
- ・個人情報の取扱:申込時に提供された個人情報は受講者管理及び御案内の発送以外の目的には使用いたしません。

■主催：慶應義塾大学薬学部
■共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン
未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

■問い合わせ先：慶應義塾大学大学院薬学研究所
がんプロフェッショナル事務局
〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30
E-mail: kyg-sympo2@adst.keio.ac.jp

受講者の声

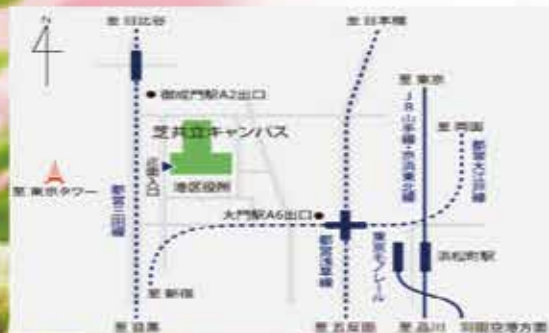
- パネル検査によるがん遺伝子検査により、遺伝子多型に基づいて投与量や治療方針を考えていける事から、ゲノム治療の可能性を感じました。
- PGx、添付文書について、とても勉強になり良かったです。がんゲノム医療の大切さがわかり良かったです。
- 辻先生の講義では、実際の薬剤が 1st line になった経緯なども含めお話ししていただき、普段自身が調剤・鑑査する薬への理解を深められました。寺田先生の講義では、がんゲノム医療の実際だけでなく、倫理的配慮等についてもお話しいただき、勉強になりました。
- UGT1A1 が生殖細胞系列変異と関係があること、AZA に対する NUDT15 についての認識がなかったため、大変参考になりました。PGx を考慮した治療戦略に薬剤師がどう関わっていくのか、参考になりました。
- PGx という言葉を初めて聞いたので大変勉強になりました。ゲノム医療はまだ TV で見るだけの世界のように考えていましたが、研究施設のある大学病院では、実臨床での取り組みがここまで行われていると驚きました。
- がんゲノム医療に対して薬剤師が多く介入できるように努力していきたいと感じました。
- 「がんゲノム」という言葉で難しいというイメージで避け続けていましたが、今回基本から教えていただき大変理解できました。
- 話題の内容について講義が受けられて良かったです。
- 初心者にとっても分かり易かったです。ありがとうございました。
- 知識として知っていること、読めばわかることだけでなく、実際の臨床現場での取組みや実証例などについても講演していただきたかったです。外来治療で受けている患者が薬局に来ることもあり、更に実務に役立つよう学びたい分野です。(相談されることもよくあります)
- 看護婦さん達がどう盛り上がっているのか (Ns さんのレベルとして、どの辺りの方なのかも含めて) 興味が生じました。薬剤師同様仕事の種類差があると思うのですが。
- わかりやすくご講演いただけましたと思います。レジメにも講演会の資料をもう少し加えていただけるといいと思います。
- とてもいい講演でした。わかりやすい説明、ありがとうございました。
- 医療品の添付文書をもう一度読み返してみなければと思いました。遺伝子多型の検査なども進んでいると感じました。処方箋に検査値ものってこない現実です。また私達の役割も変わってくるのだと痛感しました。もっと改革されなければと実感しました。ありがとうございました。
- 検査値異常の背景に、個別化医療があることが分かった。
- 先進的な医療について、まだまだ知り得ない事がたくさんある事を知った。
- とても勉強になりました。最新の話が聞けてよかったです。



第2回がんプロフェッショナル研修会

2019年 10月6日(日)

9:30-16:50 (受付 9:00~)



- ・定員：30名 / 受講料：3,000円
- ・申込締切：9月6日(金)
- ・会場：慶應義塾大学 芝共立キャンパス 3号館11階1101会議室

乳がん化学療法患者に対するファーマシューティカルケア ～がんゲノム医療の最新情報について～

プログラム/午前

- 9:30～ 9:35 開会挨拶
- 9:35～10:20 [講演]「がんゲノム医療の実状と求められる知識」
四十物 絵理子(慶應義塾大学医学部 腫瘍センターゲノム医療ユニット 特任助教)
- 10:20～10:50 [症例検討]「乳がん患者に対する副作用評価と治療マネージメント」
～副作用評価と治療マネージメントを学ぶ～
宇田川 涼子(国立がん研究センター中央病院 薬剤部)

プログラム/午後

- 10:50～12:00 SGD(スモールグループディスカッション)
- 13:00～15:00 スモールグループディスカッション
- 15:10～16:00 発表・ロールプレイ
- 16:00～16:50 解説・質疑応答

<コーディネーター>

川上 和宜(公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部 臨床薬剤室長)

<ファシリテーター>

川上 和宜(公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部 臨床薬剤室長)

葉山 達也(日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部主任)

中島 寿久(国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 薬剤部)

小田 泰弘(国家公務員共済組合連合会虎の門病院 薬剤部)

谷川 大夢(東海大学医学部付属病院 薬剤部)

大橋 養賢(独立行政法人国立病院機構東京医療センター 薬剤部がん薬物療法研修マネージャー)

藤堂 真紀(埼玉医科大学国際医療センター 薬剤部主任)

宇田川 涼子(国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 薬剤部)

小林 一男(公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部)

<取得可能単位>

- ・慶應義塾大学薬学部 生涯研修認定単位 4単位
 - ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定単位 3単位(申請中)
 - ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定単位 3単位(申請中)
- *終了後、症例サマリーを作成、期日までに提出して頂きます。プログラム全てを受講し、課題を提出した受講者により単位認定いたします。

<申込方法>

- ・下記生涯学習Webサイトからお申込下さい。受講料の振込みをもって受講申込となります。
- ・HP https://cpec.pha.keio.ac.jp/o_class/list.html
- *個人情報の取扱:申込時に提供された個人情報は受講者管理及び御案内の発送以外の目的には使用いたしません。

- 主催：慶應義塾大学薬学部
- 共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

- 問い合わせ先：慶應義塾大学大学院薬学研究科 がんプロフェッショナル事務局
〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30
E-mail: kyg-sympo2@adst.keio.ac.jp

受講者の声

- 最新の遺伝子治療について、全く知らない知識について大変わかりやすく、参考になる講義をして頂いて、とても為になりました。内容の充実した大変貴重な研修会でした。ありがとうございました。昨年から2回目ですが、今回も受講して良かったと思いました。
- 薬業連携の大切さや、言葉、患者対応への配慮が難しく、とても勉強になりました。遺伝に関して、難しい内容ではありましたが活発なディスカッションが出来て良かったです。
- 四十物先生、宇田川先生の講義、どちらもとても分かりやすかったです。特に四十物先生の講義では、実際の症例も交えて興味深かったです。最後に、講義（解説）とロールプレイもあって良かったです。遺伝情報を含む質問に対して、安易に答えてはいけないとわかりました。
- ファシリテーターの方がうまく誘導して下さったので、自分で事前に考えていた答えより、幅広く色々な事に気付きました。現場でよく受けるような問題に対して、実践的な内容で議論できて勉強になりました。
- 様々な職歴の方のお話が伺えて有意義でした。
- 「がんゲノム医療の実状と求められる知識」は、最先端の知識、情報が得られ、とても勉強になりました。
- 今年は最新の内容で難しくも聴きごたえがありました。
- 内容が充実した大変貴重な研修会でした。ありがとうございました。昨年から2回目ですが、今回も受講して良かったと思いました。
- 遺伝に関して難しい内容ではありましたが、活発なディスカッションが出来て良かったです。
- 最後に、講義（解説）とロールプレイがあって良かったです。遺伝情報を含む質問に対して、安易に答えてはいけないとわかりました。
- 現場でよく受けるような問題に対して、実践的な内容で討論ができて勉強になりました。
- 今後も有意義な研修会を続けて下さい。ありがとうございました。
- 番外編についてディスカッションの時間が取れず、残念でした。薬局に戻って、スタッフ間で話し合いをしてみたいと思います。
- 抗がん剤の知識があまりありませんでしたが、解りやすい流れで大変有意義な研修会でした。初めは不安でしたが、日頃のベースがあれば大丈夫だということがわかりました。
- 今年で4回目のチャレンジです。毎年学ぶ事があり新鮮です。それでは成長が無いとは思いますが、日々努力です。
- グリーフケアについても、講演会に参加したい。
- 個人的に現在呼吸器の勉強をしているので、呼吸器疾患について取り上げて頂けたらと思います。
- 今後も様々な課題の研修会の企画を期待しています。



2019年度

慶應義塾大学薬学部 第3回がんプロフェッショナル研修会

「市民公開講座」

**がんの治療の強い味方
「がん専門薬剤師」に相談しよう！**

2020年 **1月19日(日)**

13:30-15:00 (受付13:00~)

無料

がん薬物治療の専門家である「がん専門薬剤師」という強い味方がいることをご存じですか？がん専門薬剤師は、抗がん薬の治療効果を最大限に高め、副作用を出来る限り抑えるために、その専門的な知識と技能を発揮して、他の医療スタッフと共に、日夜患者さんの治療に関わっています。

この講座では、がん専門薬剤師という立場の薬剤師について詳しく紹介すると共に、がん治療を受ける際に、治療上のメリットをより大きくする薬剤師との関わり方についてわかりやすく解説していきたいと思います。

- ・定員：200名(先着順)／受講料：無料
- ・対象：どなたでも
- ・申込締切：2020年1月5日(日)
- ・会場：慶應義塾大学 芝共立キャンパス

【講師】

国立がん研究センター中央病院
薬剤部 副薬剤部長 橋本 浩伸

- 主催：慶應義塾大学薬学部
- 共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン
ー未来がん医療プロフェッショナル養成プランー

受講者の声

- 薬のこと以外で、薬剤師が指導や相談することがあるということを知りました。街中のお医者様といわれる理由でしょうか。高齢者社会では、体調が悪かったら薬局に行くという時代が来るのでしょうか。
- 2月に慶應義塾大学大学病院で食道がんのオペがあります。再発に備えて参加いたしました。わかりやすく患者目線の話は今後のがんとともに寄り添って天寿を生きていく上で勉強になりました。
- 無料の市民公開講座で、最近の研究のお話をわかりやすく講義していただきました。がんの薬に関心を持つきっかけになりました。自分の周りでもがん治療を受けている人が何人かいますが、みんな「吐き気はない」と言っているのは薬の研究が進んでいるからなのだとわかりました。
- 抗がん剤使用による主な副作用についてよく理解できた。
- がん専門薬剤師について知識を得られた。
- 具体的な使い方や困っていることを伝えて頂いたのが役立ちました。
- 最初に学習到達目標を掲げているのは市民向け講座では珍しいと感じたので良かったと思う。
- しびれに関して抗がん剤の副作用で起きている場合には冷却するというのは勉強になった。(ふつうは温めると思うので)
- 大変わかりやすい内容で良かったです。また、体系的に説明いただけでわかりやすかった。
- 毎年受講することを楽しみにしております。胃がんをした経緯もあり興味深く拝聴しました。病気に際して相談するのは医師だけでなく薬剤師に出来ると知りました。今後役に立つ内容だと感謝しております。
- 実際に薬剤師の先生がどんな活動をされているか、どんなことを患者さんに説明しているのかがよくわかりました。
- 分かりやすくて良かった。がん専門薬剤師の話聞く機会はほとんどなかったので貴重な機会だったと思う。がん専門薬剤師はどの程度の規模の病院であればいるのだろうか？そのあたりも聞きたかったです。
- 病院での薬剤師さんの役割も大きいのだな、とつくづく思いました。化学療法の副作用も変わらずある中でも、いろいろな研究がされているのだと思いました。
- 薬剤の基本から抗がん剤の種類、副作用の理解が深まりました。
- 橋本先生の話が良かった。具体的な対処もよく判る。また薬剤師の立場も良く理解できた。
- 吐き気の治療などの話、とても参考になりました。まだまだ改善の余地があるんですね。
- 本日はありがとうございました。副作用のことが少しわかったような気がします。仕事に役立たいと思います。



2020年度

慶應義塾大学薬学部公開講座

第1回がんプロフェッショナル研修会

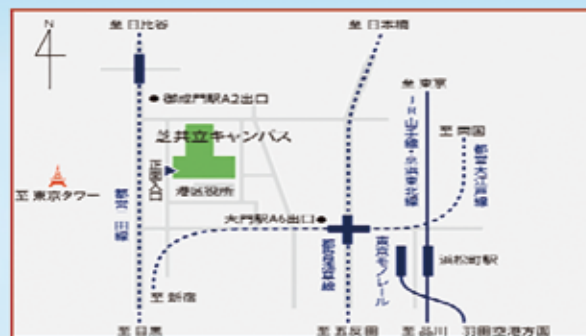
2020年 10月4日(日)

9:30-16:50 (受付 9:00~)

・定員：30名 / 受講料：3,000円

・申込締切：9月4日(金)

・会場：慶應義塾大学 芝共立キャンパス 2号館4階460大講義室



免疫チェックポイント阻害薬を使用する患者への ファーマシューティカルケアの実践

プログラム/午前

9:30~ 9:35 開会挨拶

9:35~10:05 【講演】「胃がんの病態生理」

高島 淳生(国立がん研究センター中央病院 消化管内科 医長)

10:05~10:35 【講演】「免疫チェックポイント阻害薬の薬効薬理と副作用マネジメント」

葉山 達也(日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 主任)

10:35~11:25 【症例検討】「免疫チェックポイント阻害薬を投薬されている患者に必要なフォローアップの実践」

小林 一男(公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部)

11:25~12:00 SGD(スモールグループディスカッション)

13:00~15:00 SGD(スモールグループディスカッション)

15:10~15:45 発表

15:45~16:50 解説・ロールプレイ・質疑応答

プログラム/午後

<コーディネーター>

川上 和宜(公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部 臨床薬剤室長)

<ファシリテーター>

川上 和宜(公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部 臨床薬剤室長)

葉山 達也(日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 主任)

藤堂 真紀(埼玉医科大学国際医療センター 薬剤部 主任)

小田 泰弘(国家公務員共済組合連合会虎の門病院 薬剤部)

徳留 雄太(帝京大学医学部附属病院 薬剤部 主任)

大橋 養賢(国立病院機構東京医療センター 薬剤部がん薬物療法研修マネージャー)

宇田川涼子(国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 薬剤部 主任)

中島 寿久(国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 薬剤部 主任)

小林 一男(公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部)

谷川 大夢(東海大学医学部付属病院 薬剤部)

薬剤師業務に従事し、がん患者の方に関わっている方に適した研修会です。

*SGDは密集を避けるため、遠隔会議システム(Webex等)を利用して実施する予定です。

<取得可能単位>

・慶應義塾大学薬学部 生涯研修認定単位 4単位

・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定単位 3単位

・日本医療薬学会 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定単位 3単位(申請中)

*終了後、症例サマリーを作成、期日までに提出して頂きます。プログラム全てを受講し、課題を提出した受講者へのみ単位認定いたします。

<申込方法>

・下記生涯学習Webサイトからお申込下さい。

・受講料の振込みをもって受講申込となります。

・HP https://cpec.pha.keio.ac.jp/o_class/list.html

*個人情報の取扱:申込時に提供された個人情報は受講者管理及び御案内の発送以外の目的には使用いたしません

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、延期・中止になる可能性があります。

■主催：慶應義塾大学薬学部

■共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する

「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン

未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

■問い合わせ先：慶應義塾大学大学院薬学研究科

がんプロフェッショナル事務局

〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30

E-mail: kyg-sympo2@adst.keio.ac.jp

日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定/日本医療薬学会 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定

受講者の声

- 早期にグループディスカッションに移行していただいたので、それぞれ活発に意見、発言ができてよかったです。ファシリテーターの先生方も幅広く見ることに導いていただき勉強になりました。
- 各自、気がついた事、意見を出しあうのはよい。最後の解説で模範解答により理解が深まった。
- 基礎からわかりやすく教えていただいて、とても役立ちます。
- スムーズに進行し、良かったと思います。
- Dr に基礎的なところから講義してもらえたのがよかったです。また討論も意見が活発で良かったと思います。
- 有意義な時間でした。ファシリテーターの考えも聞けるので非常に面白いです。
- 他ではほとんどが Zoom の研修会に変わっているので集会研修の方が現場の雰囲気がわかる。内容は濃いけど、時間がやや長く感じられた。
- irAE のマネジメントとしてだけでなく、薬物療法モニタリングを行う際に、色々な視点で患者をみることの大切さ、自分に足りていない考えを知れて勉強になった。
- 病院薬剤師のウエイトが大きかったです。
- 経口抗がん剤のモニタリング、(肺がん治療薬が進んでいるので) 説明等も行っていただきたいです。
- 症例解説もあり、本当に理解実践するのに役立つ研修でした。ありがとうございました。
- 意見を出しあう形のグループディスカッションが良かった。
- irAE が様々な癌腫で使用される中、表でまとめられていたため大変勉強になりました!! 自分の中でも整理できました。他施設の方の考え方、大変参考になりました。
- こういう時期に様々な工夫をしていただき、開催していただいたことに感謝しかありません。久しぶりの face to face のミーティングで空き時間に現場の意見交換等もでき、本当に有意義な豊かな時間を過ごすことができました。
- ご尽力いただきましたスタッフの皆さまに感謝です。
- 知識に加え、現場でどう介入していくか、(考え方や行動にフォーカスをあてた) 内容の力を付けていきたいです。
- 問題解決に向けたプロセスを学べると良いかと思いました。
- ハードルを下げ過ぎることなく、お互いに意欲をもってレベルアップできる集団でありたいですね。

Keio University



2020年度 慶應義塾大学薬学部
第2回がんプロフェッショナル研修会
市民公開講座 WEB 開催

「抗がん薬」って 「発がん性」があるんです！

～抗がん薬を使うとき、一緒に暮らす家族って
危険なの？対策は必要なの？～

実は多くの抗がん薬には「発がん性」や「催奇形性(奇形児が生まれること)」といった毒性があるのです。では患者さんと一緒に暮らすご家族に危険性は無いのでしょうか？本講演では、このような患者さんご家族の危険性と必要な対策について紹介します。対策不足だけでなく過剰な対策も不幸を招きます。必要な対策のみを適切に行い、余計な不安を払拭し、家族みんなが笑顔になれる治療に繋げましょう！

【日程】

2021年1月17日(日) 13:30-15:00

見逃し配信あり

無料

【講師】

埼玉県立がんセンター 薬剤部

副技師長 中山 季昭

定員：200名(事前申込制・先着順)

対象：どなたでも

申込方法：Web 事前申込ページから

申込締切：2021年1月11日(月・祝)

↓ Web 事前申込ページ ↓



<https://forms.gle/fNXoVELXFZxZrkBJ6>

■主催：慶應義塾大学薬学部

■お問合せ先：慶應義塾大学大学院

薬学研究科がんプロフェッショナル事務局

〒105-8512 東京都港区芝公園 1-5-30

■共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する

「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン FAX：03-5400-2633

-未来がん医療プロフェッショナル養成プラン-

Email：kyg-sympo2@adst.keio.ac.jp

受講者の声

- 医療従事者の曝露についてだけでなく患者様やご家族に対しての具体的な指導方法もあり業務に役立ちます。とてもわかりやすかったです。
- 薬局薬剤師ですが医薬品の暴露についてはあまり気にしていなかったのも参考になりました。また一般向けと専門向けに分けてあったのも良かったです。
- リスクとベネフィットを秤にかけ治療はたくさんあります。お一人お一人の患者さま、ご家族に必要な情報を適切にアドバイスしていきたいと思いました。
- 患者、患者家族への指導内容が良くわかりました。PTP シート調剤時の手袋着用は初めて聞き勉強になりました。
- なかなか良いテーマで薬学実習生にも伝えたいと思います。
- がん患者を支える家族に寄り添ってくれる、大変わかりやすい言葉での講演でした。過剰に不安にならず、家族の絆を大切にしたいと思います。
- 普段の職務（調剤薬局での調剤・服薬指導）であまり抗がん薬の取り扱いが多くない職場のため、曝露対策への意識が低くなって大いに反省させられた内容でした。抗がん薬服用中の患者さんへの服薬指導時のアドバイスとして（例えばご家庭での対策等）今回の講演で得られた知識を活かして今後は適切な助言ができるようにしたいと思います。
- 看護師ですが、曝露について安易に考えていた点があり、今回は講義をうけてPPEの重要性を再認識しました。
- とても分かりやすく自分にも大変勉強になりました。抗がん剤を扱う人数はさほど多くはないですが、在宅メインの調剤薬局のため、直接患者さんやそのご家族にお話し出来る内容だと思いました。
- 普段抗がん剤を取り扱う看護師ですが、患者さんへの対応や説明の仕方にこれから活かしていきます。ありがとうございました。
- 職業性抗がん薬曝露対策をそのまま患者指導に適用せず、患者や家族の生活や個別性に沿った指導が大切ということが学びました。今後の患者指導に活かせればと思います。
- 初めて知る内容が多くあり、知見が広がりました。正しい理解と対処をもって冷静に癌と向き合うことの大切さを学ぶことができました。今後も医療従事者のみならず広く一般に向けて、今回のようにわかりやすく解説いただくと大変助かります。どうもありがとうございました。
- オンデマンドでの視聴のため、メモをとりながらしっかりと学ぶことができ、とても良かったです。
- 子育て中のため勉強会やオンラインセミナーなど時間帯的に諦めざるを得ないものが多いなか、視聴可能時間が長いこちらの講座は、とてもありがたかったです。感謝いたします。
- WEB 講座でのご準備大変だったと思います。新型コロナのご時世、自宅で拝聴でき非常に助かりました。とても有意義な時間でした。ありがとうございました。



2021年度慶應義塾大学薬学部公開講座 第1回がんプロフェッショナル研修会

開催日時：2021年6月13日(日)

9:50 - 12:50

- ・定員：200名
- ・受講料：2,600円
- ・申込締切：5月30日(日)
- ・開催形式：Web開催

■第一部 (9:50~11:20)

臨床医から見た遺伝子パネル検査のメリット・デメリット

古川 孝広 公益財団法人がん研究会 有明病院
先端医療開発センター がん早期臨床開発部長

■第二部 (11:20~12:50)

がんゲノム医療に向けた創薬研究

濱田 哲暢 国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所
分子薬理研究分野長

<取得可能単位>

- ・慶應義塾大学薬学部
生涯研修認定単位 2単位
- ・日本臨床腫瘍薬学会
外来がん治療認定薬剤師講習(研修)認定単位 2単位
- ・日本医療薬学会
がん専門薬剤師講習会・教育セミナー認定単位 1単位

<申込方法>

- ・下記生涯学習Webサイトからお申込下さい。
受講料の振込をもって申込完了となります。
- ・HP https://cpec.pha.keio.ac.jp/o_class/list.html

※個人情報の取扱

申込時に提供された個人情報は受講者管理及び御案内の
発送以外の目的には使用いたしません。

■主催：慶應義塾大学薬学部
■共催：文部科学省 多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン
未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

■お問い合わせ先：慶應義塾大学大学院薬学研究科
がんプロフェッショナル事務局
〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30
E-mail : kyg-sympo2@adst.keio.ac.jp

受講者の声

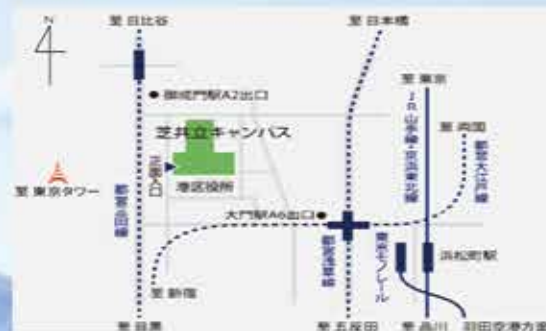
- 最先端のがん治療に対する考え方に触れられて、自己啓発になりました
- 難しい内容だったが、新たな知見を得ることができた。
- 普段、街の薬局では情報が入らない為、がんプロ講座という専門性の高い講演やガン専薬剤師による講演会の機会が増えればスキルアップにつながる
- 癌治療の薬と検査の現状について大まかな点が理解できた。
- 最新の話題で新たな知見が多かった
- 古川先生には、遺伝子腫瘍の基礎から、遺伝子パネル検査、コスト、多職種連携の重要性を学ばせて頂きました。前回の遺伝カウンセリングの重要性を強く感じ、希望だけでなく、遺伝子腫瘍の治療後のサポートを丁寧に行おうと思いました。
- 濱田先生には、基礎研究の大切さ、着眼点、当たり前と見ていた情報を薬剤師としてどう向き合うのか学ばせて頂きました。
- ゲノム医療や創薬についてお話を聞けることが少ないので大変貴重でした。
- 今まで、何回かがんプロフェッショナル研修会に参加させて頂きました。やはり、講義内容は難しいと思いました。そのような中、家族が希少がんの治療を受けていることもありまして、身近に感じました。難しいながらも参加させて頂いてよかったと思います。
- 充実した内容の公開講座をありがとうございました。
- 癌治療が凄まじい速さで進歩しているとわかった
- 日々の化学療法において、遺伝子解析と分子標的治療薬の選定は重要であることは理解していたが、創薬研究とその技術について初めて耳にするものも多く、大変勉強になりました。
- 最新の現場の医療や今後の研究の課題がわかりました。
- 難易度が高かったが、勉強になった。
- パネルのこと（種類がある）こと、ゲノムについてなかなか、勉強できないことが授業でうけられた。
- パネルもいろいろな種類があり、ゲノムもガンとかかわりが多分にあり興味深かった。
- 最先端の日本のトップのがん治療についての話を聞けてとても勉強になった。
- HBOC 関連腫瘍、がんゲノム医療についての最新の情報、今後の展望について知ることができた。今後の業務に活かしていきたい。
- 「臨床医からみた遺伝子パネル検査のメリット、デメリット」の講演は非常に興味深く、面白かったです。知らないことが多くためになりました。「がんゲノム医療に向けた創薬研究」の講演は専門用語が多く、私には難しかったところがあり、ついていくのがやっとでした。勉強不足を反省しています。
- 私には少し難しい内容でしたが、遺伝子パネル検査によって得られた結果が、無駄になることのない未来を想像したくなりました。



第2回がんプロフェッショナル研修会

2021年 10月17日(日)

9:00-17:00 (受付 8:30~)



- ・定員：30名 / 受講料：3,000円
- ・申込締切：10月1日(金)
- ・会場：慶應義塾大学 芝共立キャンパス 2号館4階460大講堂

AYA(Adolescent & Young Adult)世代のがん患者に対する 薬剤師のかかわり

プログラム/午前

- 9:00~9:05 開会挨拶
- 9:05~9:35 【講演】「AYA世代のがん治療と長期フォローアップ」
平井 麻衣子(日本大学医学部附属板橋病院 小児科・新生児科 助教)
- 9:35~10:05 【講演】「AYA世代がん患者のこころのケア」
平山 貴敏(国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)
- 10:05~10:35 【講演】「薬剤師目線で考えるAYA世代患者との関わり」
宇田川 涼子(国立がん研究センター中央病院 薬剤部 主任)
- 10:45~11:05 【症例検討】「AYA世代患者に対して、薬剤師として何が出来るかを課題症例を通じて考える
~30代の乳がん患者の事例を通して~」
小田 泰弘(虎の門病院 薬剤部)

プログラム/午後

- 11:05~14:15 SGD(スモールグループディスカッション/昼休憩)
- 14:15~16:20 発表・症例検討解説・質疑応答・フィードバック
- 16:20~16:50 【教育講演】「がん生殖医療の最前線 卵子・受精卵・卵巣凍結法」
山田 満穂(慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室 専任講師)
- 16:50~17:00 閉会挨拶

<コーディネーター>

川上 和宜(がん研究会有明病院 薬剤部 臨床薬剤室長)

<ファシリテーター>

川上 和宜(がん研究会有明病院 薬剤部 臨床薬剤室長)

宇田川 涼子(国立がん研究センター中央病院 薬剤部 主任)

小田 泰弘(虎の門病院 薬剤部)

徳留 雄太(帝京大学医学部附属病院 薬剤部 主任)

笠井 雄祐(慶應義塾大学病院 薬剤部)

鮎原 秀明(東京医科大学病院 薬剤部)

兼山 達也(日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 主任)

中島 寿久(国立がん研究センター中央病院 薬剤部 主任)

小林 一男(がん研究会有明病院 薬剤部)

谷川 大夢(東海大学医学部附属病院 薬剤部)

藤宮 龍祥(東京薬科大学 薬学部 医療薬学科 医療実務薬学教室 助教)

薬剤師業務に従事し、がん患者の方に関わっている方に適した研修会です。

<取得可能単位>

- ・慶應義塾大学薬学部 生涯研修認定単位 4単位
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師講習会・教育セミナー 認定単位 3単位
- ・日本臨床腫瘍学会 外来がん治療認定薬剤師講習(研修) 認定単位 3単位(申請中)

*終了後、症例サマリーを作成、期日までに提出して頂きます。プログラム全てを受講し、課題を提出した受講者へのみ単位認定いたします。

*新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、延期・中止になる可能性があります。

*SGDは感染対策を講じたうえで実施します。

<申込方法>

下記生涯学習Webサイトからお申込下さい。
受講料の振込をもって受講申込となります。

https://cpec.pha.keio.ac.jp/o_class/list.html



*個人情報の取扱: 申込時に提供された個人情報は受講者
管理及び御案内の発送以外の目的には使用いたしません。

■主催: 慶應義塾大学薬学部
■共催: 文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)養成プラン
未来がん医療プロフェッショナル養成プラン・同薬剤師専門部会

■問い合わせ先: 慶應義塾大学大学院薬学研究科
がんプロフェッショナル事務局
〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30
E-mail: kyg-sympo2@adst.keio.ac.jp

受講者の声

- 症例検討ではいろいろな意見が出て、楽しかったです。
- TC療法の副作用マネジメントの討論を通じて理解が進んだ。保険薬局の視点も討論を通じて学ぶことができた。
- 時間が余ったら、設問にない所もディスカッション出来る今回のケースはとても良かったです。内容の濃いディスカッションが聞けて身が引き締まる思いです、
- 症例検討の際、司会の病院薬剤師の先生の進行が素晴らしく、意見を言いやすかった。今回は書記をファシリテーターの先生が担当して下さい、参加者全員がディスカッションに集中することが出来たのが良かった。
- 普段、日常業務に終わって、深く症例を考えることができていなかったのですが、今回の研修会を参考に、考え方や患者さんへの接し方を、あらためて考えたいと思います。
- 難易度は高くても、みんなで考えることで、色々な気づきがあってよかったです。
- SGDによって、自施設以外の意見を聞くことが大変参考になった。
- 病院やほかの保険調剤薬局の薬剤師、大学院の学生さんなどと意見交換出来て非常に有意義だった。
- いつもレベルの高い勉強させていただき、ありがとうございます。薬局勤務ですが、薬局の中だけでは学べない病院薬剤師の方の業務内容、視点を学ぶことが出来て、大変満足しています。今後、JASPOの認定薬剤師を取得をし、今までこの研修会で学んだ事を実際の業務の場で活かしていきたいと思っております。
- グループディスカッションでの活発な意見交換ができとても良かった。
- 最先端で働いていらっしゃる先生方の体験談を聞くことができ、毎回参考になります。
- AYA世代のがん患者様の実際や、山田先生のがんによって卵子、受精卵、卵巣凍結法を選ばざるを得ない人にとっての実際を次回はさらに症例検討出来たら...と思っております。
- 薬局薬剤師にとって、がんの専門的な症例検討を行える場は少ないのが実情です。がん治療においてトップランナーの先生方と一緒に学ぶことの出来る場は大変貴重だと思います。今後もこの研修会は継続して行って欲しいと思います。
- がん治療が入院から外来にシフトが進み、病院薬剤師と薬局薬剤師が連携して、薬物療法をサポートしていくことが求められているかと思います。がんプロフェッショナル研修会のファシリテーターを、現在は病院薬剤師の先生と大学の先生が務めてくださっていますが、その中に薬局薬剤師も是非加えていただけたらと思います。

市民公開講座 WEB開催

生活の質を保ちつつ、抗がん剤治療を安心して受けることは可能でしょうか？

本講演では、そのための抗がん剤治療の副作用対策を紹介します。特に、抗がん剤の代表的な副作用である悪心・嘔吐の支持療法について、科学的根拠の変遷を学び、患者さんが笑顔になれる快適ながん治療に繋がしましょう！

講演1

生活の質を保ちつつ、 抗がん剤治療を受けるには？

～副作用について薬剤師に相談しよう！～

田内 淳子 (国立がん研究センター東病院 薬剤部)

講演2

がん治療の副作用対策

「快適ながん治療をめざして」

全田 貞幹 (国立がん研究センター東病院 放射線治療科 医長)

オンデマンド配信

2022年 1月16日(日) 13:30 配信開始
～ 23日(日) 23:59

無料

定員 200名 (事前申込制・先着順)

申込方法 WEB事前申込ページから

対象 どなたでも

申込締切 2022年1月10日(月・祝)

主催 慶應義塾大学薬学部
共催 文部科学省 多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン
ー 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン ー

WEB事前申込ページ



お問合せ先：慶應義塾大学大学院薬学研究科がんプロフェッショナル事務局
〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30
E-mail cpec@pha.keio.ac.jp

<https://forms.gle/d4YU4K2L1j9LoaE77>

- 患者さんからの聞き取り、医師への報告や提案に役立つと思います。
- 特に吐き気の機序と時間軸、吐き気予防のための薬の変容について、とてもわかりやすかったです。
- 母が抗がん治療中なので、母と一緒に聴講しました。母は「今までの治療を顧みることができ、今後の前向きに治療を受ける気になった」と申しております。
- 私も現在化学療法をうけているので真剣に学びました。ありがとうございました。
- 抗がん剤治療をされている患者さんに、どのようにお声がけするか悩むことがあり、参加しました。最新の抗がん剤治療と副作用対策について知ることができました。今までの歴史のながれを知ることにより、スムーズに理解することができました。
- 私もがんを患い全摘し、現在は、経過観察状態です、現在は経過良好ですが、今後治療を受けることも予想されるので、大変勉強になりました。
- 抗がん治療の副作用は辛いものだという意識がありましたが今回の講座で医療の進歩を知り副作用に対する恐怖心が少なくなりました。癌の発症率は非常に高いと聞いていたので癌に対する恐怖と治療の際の副作用の恐怖がありましたがもし癌になって治療を受けることになって今回学んだことを思い出して副作用軽減のため自分にできることをしていきたいと思います。
- 講座を受ける前は、がん治療について詳しい知識はありませんでしたがイラストやグラフを用いた説明がわかりやすかったです。また、難しい表現をわかりやすい言葉に置き換えて説明してくださったおかげで理解することができました。
- 制吐剤の歴史について楽しく聞きながら理解することができました。自分もがん治療中ですが、普段使っている薬の歴史は病院で中々聞くことができないので、貴重な機会をありがとうございました。今まで以上に安心して治療に臨めるし、大変でも頑張ろうと思えました。
- 抗がん剤の副作用を軽減のための薬が 40 年の間にとっても進歩していることを知り、安堵しました。また、副作用のために抗がん剤の量を減らすと治療効果が落ちるのではないかと心配でしたが、全身状態をよく保つことが重要であることを理解し有益でした。ありがとうございました。
- 抗がん剤治療の副作用について、がん治療について色々と勉強してきましたがとてもわかりやすかったです。
- 抗がん剤の副作用は 10～15 年前に比べて訴える患者が少なくなった印象はあったが、それは様々な研究の結果だと理解できました。
- 私はがん治療における薬の副作用について 1 番気になりました。副作用を我慢してしまう方も少なからずいると思います。実際もし私が副作用を受けた時、しょうがないと思って我慢してしまうと思いました。でも我慢をしてはいけなくて、しっかり症状に合わせながら治療を進めていくことが大事ということを知りました。
- 双方の講座の連携にも配慮されており、非常にわかりやすく、有益でした。
- トレーシングレポートを作成することがあるので役立ちました
- 新しい情報に触れられてよかった。病院・薬局勤務ではないので、このような機会は貴重である。オンデマンド配信であるところも大変便利だった。
- 自分が将来薬剤師になりたいという夢を持っているので、より一層深く学ぶことができよかったです。

■ 本研究科における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響

2019年度末から日本国内でも新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大により社会活動が制限されるようになり、本研究科のがんプロフェSSIONAL養成プランも大きな影響を受けた。

2020年6月に開催を予定していたがんプロフェSSIONAL研修会は感染拡大防止を目的とした全塾的なキャンパス入構規制により開催中止を余儀なくされた。しかし、同年10月には規制の一部解除もあり、感染拡大防止策を徹底したうえで芝共立キャンパスにおいて2020年度第1回がんプロフェSSIONAL研修会を開催した。また2021年1月には、第2回がんプロフェSSIONAL研修会〔市民公開講座〕を本研究科の研修会としては初めてWeb形式で開催した。

2021年度は、第1回・第3回がんプロフェSSIONAL研修会をWeb形式で、第2回がんプロフェSSIONAL研修会は2020年度同様、芝共立キャンパスで開催した。6月に開催した2021年度第1回がんプロフェSSIONAL研修会は、開催方式をWeb形式に移行したことにより、新型コロナウイルス感染症にともなう緊急事態宣言下においても会場開催時と遜色のない研修の機会を提供することができた。

■ 2020年度第1回がんプロフェSSIONAL研修会（2020年10月4日開催）

検温、換気、マスク着用・手指消毒の喚起、スモールグループディスカッションの際は班ごとに会場分割を行う等の新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底したうえで、芝共立キャンパスで開催した。

「免疫チェックポイント阻害薬を使用する患者への pharmaceutical care の実践」をテーマとして講義、症例検討、スモールグループディスカッションを実施した。コロナ禍で多くの研修会が開催中止に追い込まれるなかで、病院薬剤師や薬局薬剤師など多様な薬剤師が対面で直接意見を交換し、がん患者へのアプローチを学ぶことができる貴重な機会となった。



■ 2020年度第2回がんプロフェッショナル研修会 (2021年1月17日開催)

がんプロフェッショナル研修会として初の Web 形式で開催した。2021年1月17日～1月23日の期間限定でオンデマンド配信を実施し、全国各地から定員を上回る 228 名の薬剤師・その他医療従事者・一般市民が視聴した。

「抗がん薬」って「発がん性」があるんです！～抗がん薬を使うとき、一緒に暮らす家族って危険なの？対策は必要なの？～をテーマとして、第一部では一般市民に向けた基礎的な内容、第二部では医療従事者に向けた発展的な内容を取り上げるという二部構成で実施された。



■ 2021年度第1回がんプロフェッショナル研修会 (2021年6月13日開催)

「臨床医から見た遺伝子パネル検査のメリット・デメリット／がんゲノム医療に向けた創薬研究」をテーマとして、Zoom ウェビナーを用いた Web 形式（リアルタイム配信）で開催した。チャット機能を用いて質疑応答を実施するなど、対面形式で開催する講座と同様の研修環境を実現した。



■ 2021年度第2回がんプロフェッショナル研修会 (2021年10月17日開催)

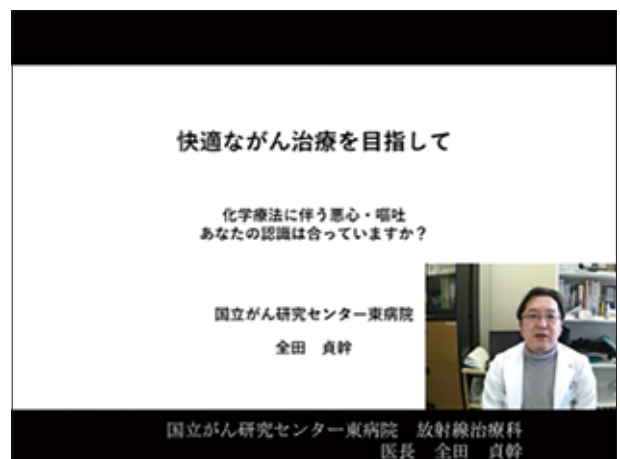
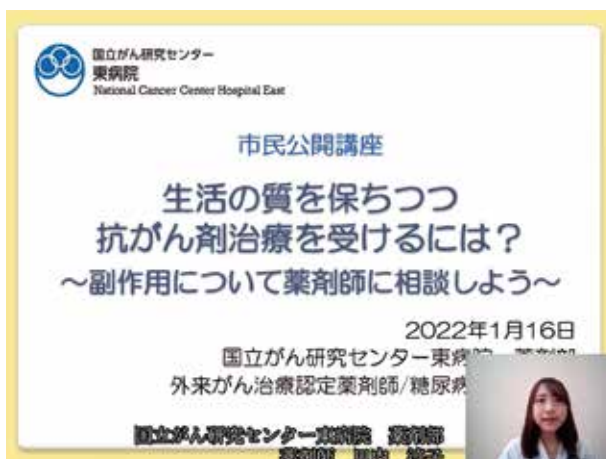
2020年度研修会に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底して芝共立キャンパスで開催した。「AYA (Adolescent & Young Adult) 世代のがん患者に対する薬剤師のかかわり」をテーマとして、講座・症例検討・スモールグループディスカッションを実施した。班ごとに部屋を分けて実施するスモールグループディスカッションの際は、受講者のスムーズな誘導や、各班が作成した資料の集約にクラウドを活用するなど、2020年度研修会のノウハウを生かして円滑に開催することができた。



■ 2021年度第3回がんプロフェッショナル研修会 (2022年1月16日開催)

「生活の質を保ちつつ、抗がん剤治療を受けるには？ ～副作用について薬剤師に相談しよう！～/がん治療の副作用対策「快適ながん治療をめざして」」をテーマとして、薬剤師と医師それぞれの視点から、抗がん剤の代表的な副作用である悪心・嘔吐の支持療法の科学的根拠の変遷について講演を行った。

2022年1月16日～1月23日の期間限定でオンデマンド配信を実施し、全国各地から定員を上回る236名の薬剤師・その他医療従事者・一般市民が視聴した。



薬剤師部会との連携

■ 連携校から本研究科研修会への講師参加

2021年度第2回がんプロフェッショナル研修会（2021年10月17日開催）において、がんプロフェッショナル養成プラン参加大学からなる薬剤師部会より、鮎原 秀明先生（東京医科大学病院 薬剤部）、藤宮 龍祥先生（東京薬科大学 薬学部 医療薬学科 医療実務薬学教室 助教）にファシリテーターとしてご参加いただいた。

「AYA（Adolescent & Young Adult）世代のがん患者に対する薬剤師のかかわり」をテーマとした本研修会では、講演に加えて症例検討・受講者同士のスモールグループディスカッションを実施しており、ファシリテーターとして国内がん診療の拠点となる病院から多くの薬剤師に参加いただいている。

今回薬剤師部会のメンバーとして初めて本研修会に出席された鮎原先生、藤宮先生は、それぞれ病院薬剤師としての視点、大学教員としての視点から受講者の議論を適切にリードしていただいた。

開催後のアンケートでは、受講者から「病院やほかの保険調剤薬局の薬剤師、大学院の学生さんなどと意見交換出来て非常に有意義だった」や「薬局の中だけでは学べない病院薬剤師の方の業務内容、視点を学ぶことが出来て、大変満足しています」といった意見が寄せられるなど、薬剤師部会の協力により充実した講師・ファシリテーター体制により、受講者満足度の高い講座となった。



■ 連携校主催の一般市民公開講座への講師派遣

また、薬剤師部会との関わりとして、本学部教員を連携校の公開講座に講師として派遣した。薬剤師部会共催のもと、2021年11月21日～12月31日の期間にオンデマンド形式で開催された国際医療福祉大学大学院 がんプロ一般市民公開講座（テーマ：「がん薬物療法における薬剤師への期待、果たすべき役割」）では、本学部医療薬学・社会連携センター 医療薬学部門 横山 雄太助教が「薬学部におけるがん医療人材育成に向けた臨床教育」と題して講演を行った。

連携校

東京医科歯科大学

秋田大学

慶應義塾大学

国際医療福祉大学

聖マリアンナ医科大学

東京医科大学

東京薬科大学

弘前大学

オブザーバー校

岩手医科大学

島根大学

順天堂大学

東海大学

鳥取大学



文部科学省 研究拠点形成費補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)

**多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン**

—未来がん医療プロフェッショナル養成プラン—

第3期(2017～2021年度) 活動報告書

発行 2022年3月

発行者 慶應義塾大学大学院 薬学研究科 がんプロフェッショナル事務局

〒105-8512 東京都港区芝公園 1-5-30

TEL : 03-5400-2498 FAX : 03-5400-2633